

令和 7 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (3) (5)

申請組織 生活科学部

申請組織長 役職名 生活科学部・教授 氏名 蔵澄 美仁

統括責任者 役職名 管理栄養学科准教授 氏名 門屋 亨介

課題名 椛山×星が丘テラス サイエンスカフェ

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	門屋 亨介	生活科学部・准教授	
		三田 友紀子	生活科学部・講師	事務、運営

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本事業は、本学科の教員と一般の人々が、カフェなどでお茶などを飲みながら、科学について語り合う場をつくるサイエンスカフェを運営、企画、実施するものである。内容は「食」に関する分野として、最新の情報を踏まえて実施する。また、対象として、一般の方はもちろん、高校生、在学生、卒業生にも広く発信し、卒業生に対してのリカレント教育の一環としても実施する。

学科では、オープンキャンパスなどで高校生への情報提供は SNS なども使用して充実化を図ってきた。しかし、本学は女子教育に注視しており、その情報提供が限定的だと言える。また、近隣に「大学で何をやっているか」が分かりにくい状況にあるとも考えられ、本事業は本学の「見える化」にもつながると期待される。この事業の実施により、幅広い世代に対して「食」に関わる食品学や栄養学、それに繋がる健康に関しての情報発信にもつながるだけでなく、様々な意見が集約できる一つのコミュニティづくりにもつながると考えられる。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

場所は星が丘テラス内のイベントスペースを予定している。講師は管理栄養学科教員、もしくは共同研究先企業、卒業生とし、新規の情報を含めて講演、ディスカッションを行う。

候補日時：2025 年 10 月より 2,3 か月に 1 回のペースで実施。時間帯は各店舗の空き時間で応相談とする。時間はすべてで 60 分程度 (内 40 分は講師による講演、残り時間は質疑応答など)。

対象：一般 (高校生以上が望ましい)

場所：星ヶ丘テラスイベントスペース (日時、内容によって移動可)

募集方法：本学 HP、星が丘テラスにポスター提示

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

星ヶ丘テラスとの相談により、2025年12月13日、及び、2026年2月7日にサイエンスカフェを開催した。第一回は中部飼料株式会社様が「“おいしい”は動物たちの“ごはん”から作られる - 生産者さんの想いと飼料、私たちの食卓を繋ぐ物語」というタイトルで講演を行った。普段我々が食べている卵や肉、魚の食事の研究を行い、安全な食事へとつなげる大変貴重な講演であった。講演中には視聴者参加型の質疑応答の時間も設けられ、動物飼料の現状や農家現場での苦労などの実りある議論が行われた。

第二回は本学生活科学部管理栄養学科准教授保田倫子先生が「身近な食材の機能を科学で読み解く」というタイトルで講演を行った。食べ物が持つ機能性成分について科学的に分析を行った研究成果を発表した。日々の食をより楽しむために、身近な食材を例にその成分の特徴や作用の仕組みをわかりやすく紹介し、健康や機能性に関する情報をどのように読み解けばいいかわかりやすく解説した。質疑応答では多くの質問が寄せられ、食品機能について活発な議論が行われた。

大学で行われる共同研究や研究成果を広く周りに告知する場は限られており、一般市民にとってはわかりにくい部分も多い。サイエンスカフェのような場で各教員の研究成果を公表することは、市民交流を活発にし、開かれた大学を宣伝する意味でも非常に重要である。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①動物飼料	②食肉	③鮮魚	④食品機能
⑤市民交流	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。また、イベント等実施の場合はその参加人数(外部・内部)についても明記すること。)

サイエンスカフェは本年度2回行ったが、内容的には非常に充実していた。したがって、もう少し開催頻度を上げることで、本学科、及び、本学の宣伝効果はもっと上がると予想される。本サイエンスカフェは2年目ということで、昨年度より多くの参加者に恵まれた。しかし、告知を含めた準備不足の箇所がまだ多く見受けられた。次年度に行う場合は、本年度の反省を活かし円滑な運営を目指したい。